

# 日本人の志

京都、こころここに

vol.21

## 星空も見えぬ過剰な都市の光 宇宙が語ることをばを聞こう！



平安時代の陰陽師も天文観測に携わった(京都市上京区・清明神社)

私が生まれ育った田舎では月のない夜は満天の星空でした。日没後、東の空から駆け上がるオリオンの姿を最初に見た時、「ああもう冬ののだなあ」と思ったものです。農耕にいそしんでいた私たちの先祖も、夕闇がせまり野良仕事から帰宅する途中に見る星空から季節の移ろいを感じてきたことでしょう。



藤原定家ゆかりの冷泉家

京都に住まいを移して星空がたいそう貧相なのがっかりしました。鴨川のほとり、毎晩の散歩の折に仰ぐ星空には2等星くらいしかありません。都市には人口の光があふれているためです。飛鳥時代のキトラ古墳には星図が描かれています。

実際の星の配置にかなり忠実に、世界最古の星図といえるでしょう。この星図には天の赤道、黄道、年中地平に沈まない星を示す円と、一時期でも星が見える天空を示す円までも描かれています。清明の子孫が観測し、天文密奏にされたため天変の中に超新星がありました。超新星とは重い星が一生の最期におこす大爆発で、私たちが一生のうち一度でも肉眼でみることはないだろうといえるほどに稀な天空の大事件です。平安末期から鎌倉時代初期に、宮廷歌人、藤原定家はその貴重な超新星の記録を明月記に残しました。これが歴史に記された初めての例として世界中の天文学者の注目をあび、現代の天文学の発展にも多大な貢献をしました。現在、私たちは最新の観測を基に胸躍するような宇宙を描けるようになりましたが、天体観測の原点は肉眼によるものだったのです。平安時代の目視観測の成果は日本が世界に誇ってもいいものです。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

## 宇宙に想いを

京都大名誉教授  
小山 勝二さん



こやま・かつじ 1945年愛知県生まれ。京大大学院理学研究科博士課程単位修得退学。京大理学部教授などを経て2009年名誉教授。専門はエックス線天文学。日本のエックス線天文衛星計画すべてに参加。「京都千年天文学街道」を提唱した。

### エネルギーの無駄な消費を避ける

平安京まで逆行しようとはいませんが、過剰な都市の光をすこしでも減らすことはできないものでしょうか。宇宙が語ることは謙虚に耳を傾け、人間らしい感性や未来の希望を育む心が、目の前の便利さや快適さのみを追い求め、原発事故や子孫の代までも深刻な負の遺産を残さないこと、つまりエネルギーの無駄な消費を避けることにもつながるのです。



戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

### 日本の暦

「まことに今日は霜月廿日、わが身代わりには」。上杉、武田両家の争いを題材にしたお芝居「本朝廿四孝」に出てくる有名なせりふです。霜月は旧暦11月の異称。たしかにじゅういちがつでは、せりふとして語呂がよくないですね。

月名の異称は、数多くあります。「小春」は旧暦10月の異称。おおむね新暦の11月に当たります。寒風が吹き始めるこの時期、晴れた暖かい日がはつと現れる。小春日和です。ほっこりする小春は長続きしません。23日はもう「小雪」(二十四節気の20番目)。11月には霜降月、仲冬などの異称もあります。



奈良屋記念杉本家保存会 理事兼事務局長・料理研究家 杉本 節子さん

高度成長期に育った私は、真の都であった京都を知らずして生きることに、少し物足りなさを感じている。江戸時代、三重県の貧しい農村に生まれ、京の呉服商で奉公した後、独立して家業を起した初代以降、この地で代々を重ねてきての今日であるが、明治の終わりの人間だった祖父母はもとより、彼らに育られた両親からも、天皇が東へ遷られたことに対する個人的な感慨がもたらされるというところはほとんどなかったように思う。

京都が千有年もの間、他所の人々から羨望され続けてきた本当の理由は、山紫水明の地であったり、美味豊富な土地柄であったことだけではなかったことを、京都に生まれ育った者にとってさえ、思いをおよぼすことが昔はなほなほあった。現在の京都を私はさみしく思う。東日本大震災を経て、首都機能の分散、移転がクローズアップされる今日、かつての王城の地に再び咲くことはかなわずとも、何かしら新しい絶対的な象徴を再び得た京都に生きてみたいと、漠然とした妄想をしてみたりしている。

(次回11月27日のリレーメッセージは、ハープ奏者の内田泰蔵さんです)

(「日本人の忘れもの」は、京都新聞ホームページ <http://kyoto-np.jp/kp/kyo-mp/info/nwc/>にてご覧いただけます)

## 漢字一字に想いを込めて

年末にその年の世相を漢字一字で表現する「今年の漢字」。皆さまに漢字の持つ奥深い意義を感じていただきたいと考え、当協会は1995年から「今年の漢字」を広く募集し発表してまいりました。日本文化の根幹を支え、人々の想いをつなぐ漢字。われわれは、今後も漢字を中核に置く日本文化の振興に寄与してまいります。



2010年「今年の漢字」第204号 揮毫:清水寺・森清範 貫主



2011年 募集中  
「今年の漢字」

応募締切:2011年12月5日(月)必着  
応募方法:ホームページ、はがき、FAXなど  
※詳しくは漢検ホームページをご覧ください  
発表日:2011年12月12日(月) 清水寺

財団法人 日本漢字能力検定協会

0120-509-315 月~金 9:00~17:00 祝日・年末年始を除く <http://www.kanken.or.jp/>